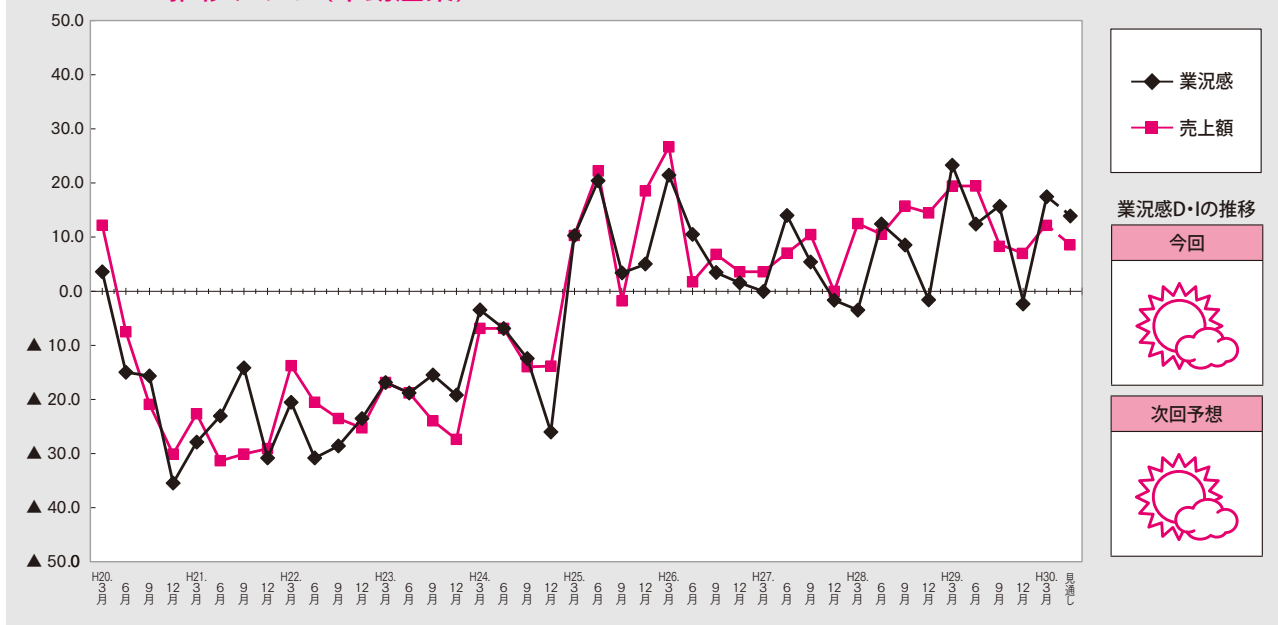


不動産業

Real estate industry

業況感、改善

D・I 推移グラフ (不動産業)



1 今期 (平成30年1 - 3月期)

不動産業の今期業況感は17.5 (前期▲1.8) となり、前期比19.3ポイント改善。前期4期ぶりにマイナスとなったD I 値は再びプラスとなった。

売上額12.3 (前期7.0)、収益10.5 (前期8.8) と共に前期比プラスとなり、販売価格も14.0 (前期10.5) と上昇した。在庫には不足感が表れ、資金繰りも改善しプラスとなった。一方で人手については不足感が強まった。

2 来期の予想 (平成30年4 - 6月期)

来期業況感はD I 値で3.5ポイント悪化するものの、プラスを維持できる見込みである。売上、収益共にやや悪化するものの、販売価格はやや改善の見込み。人手もやや改善する見込みであるが、他業種同様、不足感が続いている。

DI値の推移 (過去1年と3ヶ月後の予想)

	H29.3月期	H29.6月期	H29.9月期	H29.12月期	H30.3月期	来期見込み
業況感	23.2	12.3	15.8	▲ 1.8	17.5	14.0
売上額	19.3	19.3	8.8	7.0	12.3	8.8
収益	22.8	26.3	8.8	8.8	10.5	3.5
販売価格	▲ 3.5	0.0	▲ 3.5	10.5	14.0	17.5
仕入価格	▲ 3.5	▲ 7.0	3.6	▲ 5.4	▲ 8.8	▲ 8.8
在庫	3.5	0.0	▲ 3.6	▲ 5.3	5.3	3.5
資金繰り	7.0	3.5	▲ 5.3	▲ 5.3	3.5	0.0
人手	7.0	8.9	14.3	7.1	14.0	12.3
設備状況	-	-	-	-	-	-

業況調査メモ

鹿児島市は来年3月、城山町と山下町の「歴史と文化の道」一帯を景観形成重点地区に指定し、景観の保全強化に乗り出す。骨子案では、指定エリアは国道10号の照国神社前～長田中学校前を軸にした約31ヘクタール。マンションなど建物の高さを20メートルまでとし、道路や公園から洗濯物などが見えない設計、太陽光発電パネルは光沢のない物の設置や屋上緑化を求める。2008年6月施行の市景観計画では、観光客が集まる城山展望台から桜島の眺望を確保するため、建築物の高さが制限され同地区も該当しているが、より一層厳しくなる見込みだ。